



「びわ湖学習」



びわ湖の魚の採捕体験

<p>《活動内容》</p> <p>「かごあみ」を湖岸にしかけ、自分たちで「かごあみ」を引き揚げ、魚の採捕体験を行う。</p>	<p>【時期】 通年</p> <p>【準備物】</p> <p>《「かごあみ」をしかける》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●かごあみ（最大5個・船内常備） ●特別採捕許可証（船内常備） ●ねりえさ（乗船校で準備／さなぎ粉とマッシュポテトを混ぜるとよい）
<p>《学習のつながり》</p> <p>在来魚と外来魚 プランクトン 漁業 等</p>	<p>《「かごあみ」を引き揚げる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●丸桶1個（船内常備） ●観察用水槽（船内常備） ●軍手（乗船校で準備） ●黒いビニル袋（外来魚を入れる）

主な活動の流れ

- 学習船「うみのこ」乗船1日目に、寄港地湖岸に「かごあみ」をしかける。

《「かごあみ」をしかける際の留意点》

- ・しかける際に、「特採旗」を掲げる。（学習船「うみのこ」船内に常備）
- ・えさを一緒にかごあみに入れる場合、えさの準備は乗船校で行う。えさは、「ねりえさ」が好ましい。（ねりえさがなくても、採捕は可能。ねりえさを入れることによって、在来魚の採捕の可能性が高まる。ただ、必ずしも100%の確立で魚を採捕できるとは限らない。）

- 学習船「うみのこ」乗船2日目のびわ湖学習で「かごあみ」を引き揚げる。

- ・採捕結果を県に報告する必要があるため、採捕した個体数を確認しておく。



「かごあみ」を引き揚げる様子

- 採捕した魚を丸桶や観察用水槽に移し、観察する。

- ・魚に触れる場合は、背びれなどで手を切らないように軍手を着用する。
- ・外来魚と在来魚の割合や、採捕した魚の特徴について観察する。

- 外来魚を「外来魚回収ボックス」に入れる。

- ・採捕した外来魚は、放流したり持ち帰ったりしてはならない。外来魚回収ボックスに入れるよう義務付けられている。在来魚が採捕できた際は放流する。



回収ボックスに外来魚を入れる

- 気づいたことやわかったこと、感じたことを記録する。

※かごあみ等の備品の洗浄については、学習船「うみのこ」の甲板部で行う。